

無病息災（仏さまの功徳を頂く）

妙法蓮華經安樂行品第十四

諸天昼夜しよてんちゆうや

常為法故じょういほうこ

而衛護之にえごし

読是經者どくぜきょうしや

常無憂惱じょうむうのう

又無病痛うむびょうつう

顔色鮮白げんしきせんびやく

諸天昼夜しよてんちゆうやに常に法

のためのゆえに、

しかもこれを衛護えご

せん。

この經を讀まん者

は、常に憂惱うのうなく、

また病痛びょうつうなく、

顔色鮮白げんしきせんびやくならん。

〈大意〉

この經文は安樂行品の二つの部分をつなげたものです。

前半三行でお釈迦さまは「善神が昼夜にわたって衛護してくれてい  
る」と述べておられます。

更に後半のお言葉で「法華經を讀誦する者は、不安や悩みや病の苦痛がなく、顔色も生き生きとして  
いる」と法華經を讀誦することの功徳を述べておられます。

妙法蓮華經

安樂行品第十四

諸天昼夜 常為法故

而衛護之 讀是經者

常無憂惱 又無病痛

顏色鮮白

年 月 日

(お名前)

謹写